

東北日日新聞

本紙一ヶ月三十日
年報五元
半年報二元五角
三ヶ月報一元五角
零售每份五分
印刷部
石井 孝
電話 二二二

社説

大正十五年より昭和二年にいたる各炭礦の労働争議に於て日本坑夫組合の統制下に常警の無産階級は前線的に經濟闘争のなんたるかと、資家の陣營前に労働者の立場をばつきり知ることができた。

平町の町議選舉

早くも話題にのぼり

候補者數も五十名を算す

新緑の五月改選される平町會議員は普選最初の選舉と候補者は新顔ばかりとか或いは若手連が林立するとか種々取沙汰されてゐるが現在話題に上つてゐる候補者を見ても多年平町會の椅子を獨占してゐた沈黙の裡に苦しい勞作がいりうと續けられてきた。御用紙は悪罵と嘲笑とを浴びせかけて無産階級を侮辱したのである。時潮を識り得ざる走狗連は、あの何邊からともなく大地を踏んで押し迫る大衆の足音を聞く耳と卓見とがなかつた。追ひつめられた弱者の最後の一線に踏みとどまるあの超人的な力を知らなかつた。常警三萬の労働者諸君は無産階級の本体を知ると共にますます地方的結成を必要として支持すべき政黨を更に強く審議中であつたが、近く日本労働黨を正式に脱

退し聲明書を發表して敢然と既成政黨の渦巻へ社民黨の看板を叩きつけることになつた。石城郡産馬畜産組合總會は十八日午前十時から平町元郡役所に開催する四年度豫算一萬二千三百圓並に四年度事業を協議する。

少壯新顔が多く立候補する

候補者數も五十名を算す

會から佐藤武之 吉田虎之輔氏 消防關係から三井 井富吉 柏原幸次郎 酒井清の諸氏鐵道方面から阿部清藏書記その他實業家側から若手の柴田徳二 山野邊東次郎 井上貞次郎 吉田鎮政 草野七五三之助 高橋龜松 佐藤作平 吉村安次郎 岡田政次郎 鈴木武雄 武田元之助の諸氏と下馬評され更に現議員は青沼 加納 渡邊 荒川 野崎 萩原 吉田(五) 井上 大森 花澤 柏原 (眞)の諸氏等あげられてゐるが一方民衆黨からは猪狩千勝氏外十五六名を立候補させ

平町會三十の椅子を半數以上獨占せんと画策し一方政派側にはこれに對抗して從前通り町會に壓倒的多數を得んと鷹崎貞衛氏外十數名を立候補させんと

大膽な小鼠

郡内を荒した

平署員に御用となる

石城郡神谷村生れ當時赤井村字大平居住菅野正義事給木伊助(二九)は去る十六日午後十一時頃大膽にも提灯をつけてリヤカーを曳き平町七軒町荒川源太郎方裏口より忍び込んで八升入の醬油樽を窃取前記リヤカーに積み込んで逃走その足で北目し長女チヨ(一六)が平町一丁目裏飲食店九屋に女中奉

盲目一家へ

新田町から

舊年の新らしきに人の心もなごむくまた落付かぬ今此の頃聞くと涙ぐましく又美はしい話があるそれは石城郡小名濱町明神下生れ當時平町福宜町居住草野徳太郎(四二) 妻ハツ(四〇)夫婦の事である此の夫婦は共に盲目で按摩を業とすまの一家の苦しみは日を追ふにつれてますますばかり

至急募集

營業局員 二名

配 達 三名

東北日日新聞

本人來談午前中

白銀町十番地

白銀町十番地

白銀町十番地

白銀町十番地

白銀町十番地

白銀町十番地

白銀町十番地

白銀町十番地

白銀町十番地

白銀町十番地

白銀町十番地

白銀町十番地

白銀町十番地

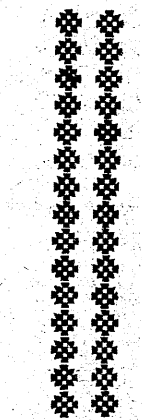
白銀町十番地

白銀町十番地

白銀町十番地

白銀町十番地

白銀町十番地



重傷

小名濱の保少年

石城郡小名濱町居住同町小學校生徒柳田保(十五)は去る十六日午後三時頃歸宅の途程中疾走して来た磐城海岸軌道ガソリン車に飛乗らんとして足を踏み外し兩足を轢かれて重傷を負ふた

警官連の!!

劍道試合大會

四ツ倉警察署員對石城郡第四區教員劍道大會は三月三日午前九時から四ツ倉署演武場で開催されるが頗る盛會の見込

筆洗ふ前に

ストロアの熱氣にうつつらうつつと流れてくる追分節が凍りつく街路から、耳へこぼれこぼれと聞かせる。それが、だんたん、近々やがて門へ小刻みの下駄の音がハタと止つた。

密造者の群

平稅務署大喜び

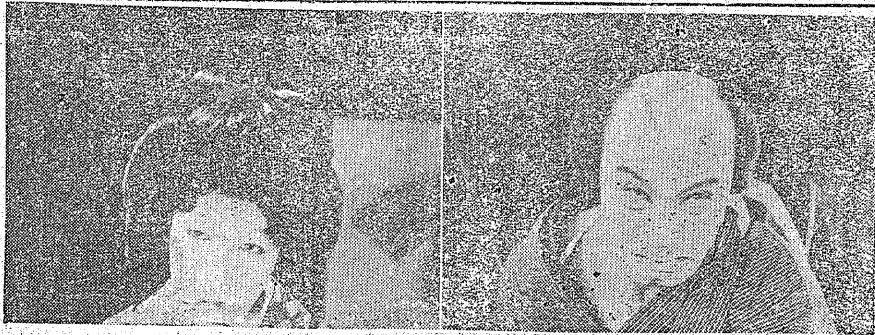
石城地方山間部は例年舊正月に入ると濁酒密造が行はれてゐるが本年は一般農家の不景氣から或ひは農民が覺醒したためか濁酒密造は一件も檢舉されないので近年全く珍らしい事だと云はれてゐる殊に近頃飲酒の弊害を匡正する目的で各地に

社民黨を支持

十七日聯合總會を開催

常磐地方に擡頭した労働運動で結成間もない大衆黨内にも警備炭礦を中心として或種の内紛が醸生しそれが勃發した労働争議惨敗以來外部に暴露した爲組合では全く衰微したが其の後石城地方に於ける鑛夫組合では日労働者支持して政黨運動に進出すべく画策して来た

無産黨が小異を捨てて大同團結し日本大衆黨を結成したので組合でも同じく之れを支持したが最近に於



林 説

色 洞 講

（一）

序

炊 骨 庵

巷間何人の口からも唄はれる都々逸に、こんなのが
ある。
惚れて居て、ほれて居て、ほれない振りをしてゐ
てほれて居る身のつらさ。
ほれすぎりや、智慧もなくなる思案も出ない、出る
は涙と愚痴ばかり。
こんな短かい文句の中に仲々深重な意味が含まれて
ゐる。
筆者は仰も戀愛とは何んであるか？なんて難解な事
を説く氣は毛頭ない、唯常識的なむしろ平凡な通俗
的を知つて居てもそれ程害にもならず、讀んで見て
肩のこらないものを其處彼處から拾ひ集めて活字に
した迄の事、其處、獨創味はないが、全然嘘もない、
理論一切ぬきにして若し理論的に探究しない御仁に
はエレン、や、厨川白村、有島武郎の著書でも讀
んだ方が、近道であり又徹底するであらう事を御傳
へするに留めて置く。
此の一篇がつまらないと思ふ方は始めから眼をつぶ
つて讀まない事で讀めば二重の損をする事になる点
もあらかじめ御拒りして置く

天野屋利兵衛

原作脚色 長谷部武臣
監督 池田富保
撮影 中西與之助
主演 天野屋利兵衛

大河内傳次郎
梅村蓉子 市川小文治
池田富保氏不破に次ぐ池
田式義十三部曲の二
筋は赤穂の人々を驚かした半
ば二挺の早打御主君殿中
に於て刃傷、城代大石の
傘下に馳せ参じた大石の
中一町人、名を天野屋利
兵衛と云ふ彼もどどより
剛直、大石の軟柔を怒り
單身鎧を振つて突き掛り
を巧みに避けて内蔵之助
利兵衛を膝下に押へて

「男と見込で頼みがある
どたつた一言……」
其の元祿の大平を破つて男
頃の大傑作と云ふべきで
あらふ

祝 創 刊

諸 橋 守 次

諸 橋 元 三 郎

◆ 祝 創 刊 ◆

日活松竹高級常設

松 田 卯 次 郎

平 館 電 四 六 六

祝 創 刊

神道扶桑教教務廳

管長 正三位伯爵 壬生基義
勳三等伯爵 権大教正 石島徳長
廳長 權大教正 石島徳長
顧問 大教正 石島一徳齋

福島縣平町白銀（電話六五〇）

祝 創 刊

縣會議員 鈴木辰三郎

健全なる發達を祈る

◆ 祝 創 刊 ◆

東部電力平營業所

所長 永倉清次郎

◁ 祝 創 刊 ▷

七十七銀行平支店

支配人 山田勇太郎